話題の最前線

アスリートから高齢者まで、高度な診断・治療を可能にする環境を実現

—— JIN 整形外科スポーツクリニック

2013 年 5 月さいたま市中央区に仁賀定雄先生が開業したのが「JIN 整形外科スポーツクリニック」。敷地面積 780 坪、その中にクリニック 200 坪、人工芝グラウンド（フットサルコート）200 坪を有する。川口工業総合病院整形外科部長、浦和レッドダイヤモンズ（浦和レッズ）専任チームドクターを経て、いったん病院勤務（川久保病院スポーツ医学センター長）に戻るも、環境が整っていないアスリートや高齢者に、高度な診断・治療を提供、とくに運動療法に力をそそぐクリニックをつくり地域に貢献したいと考えての開業だった。

敷地 780 坪の JIN 整形外科スポーツクリニック全景。元倉庫 400 坪を改築、クリニック 200 坪と人工芝グラウンド 200 坪。浦和レッズ時代からの知人の多くが助けてくれて実現した施設である

チームドクター、再度病院勤務から開業へ

JR 埼京線「南与野」駅から徒歩で 7 分、道沿いに「JIN 整形外科スポーツクリニック」が姿を現す。玄関を入ると、すぐ右にクリニック、左が人工芝グラウンド（フットサルコート）。そう、このクリニックは公式の試合ができる広さのフットサルコートつきなのだ。内部に入ると、待合室から受付がみえ、左手にリハビリテーション室、奥に診察室、検査室、会議室などが並ぶ。

仁賀先生は特集ページでも紹介したが、浦和レッズの専任チームドクターを 8 年間務め、川久保病院に移られたが、診察・治療（手術を含む）そしてリハビリテーションの過程で、走る、ステップ、切り返し動作、キック動作、あるいは予防的な運動など、どのように身につけていけばよいかが問題になる。素晴らしいグラウンドがあり、トレーナーやコーチなどスタッフにも恵まれているプロ選手はよいが、そういう条件にない選手はどうすればよいか。そう考えると、どうしてもグラウンドが欲しかった。また、浦和レッズでチームドクターとして診療のみならずすべての練習や試合、遠征や合宿にも帯同、そのなかで「トレーナーに多くのことを学ばさせてもらいました」、そして「そのトレーナーたちとともに行ってきたリハビリテーション、予防訓練は 70 歳でも 80 歳でも、元気に仕事がしたい、あるいは自分の足で立ち歩き楽しく生きていきたいという人にも大いに役立つ」、こうした思いを実現するためにも運動療法で治療や予防まで含めてやりたい、と考えるに至ったという。

高レベルの診断・治療ができる環境

仁賀先生は問診を非常に重視する。1 人に 5 時間かけたこともあるという。開業ではそれは無理だが、今では花田学園、東京有明医療大学の在学生、卒業生らのサポートスタッフが患者さん 1 人 1 人に丁寧に問診を行うことで仁賀先生の診療を助けている。「問診で 9 割がた診断から治療方針、リハビリテーションまでわかるようでなければ、どんなに理学所見をとっても、画像検査をしても正解には行き着かない可能性があるのです」。

この問診に加え、クリニックでも総合病院に勝るとも劣らぬ高レベルの画像を得るため、写真に示したとおり、透視 X 線、MRI、CT などの装置を揃えた。クリニックだからそこまではできないという妥協なし。すべてに徹底して診断・治療に全力を注ぐ。その気迫、言葉の端々、口調に自ずと感じられる。

地域になくてはならない施設を目指して

浦和レッズが創設した総合スポーツクラブ「レッズランド」にはサッカーのみならず、テニス、野球、ラグビーなど幅広い競技を楽しむ人たちが集まる。その最寄駅が「南与野」。このクリニックはちょうど通り道にある。そこを利用するアスリートにも便利だが、仁賀先生は前述のように高齢者のためにもこのクリニックを開いた。「意欲ある人は何歳になっても自分が過ごしたい生活をしたいものです。自分のからだを使って何かをやる。それはアスリートと同じです」。だから「JIN 整形外科スポーツクリニック」なのだ。そしてこう続ける。「ドイツには、スポーツシューレといって、各都市に子どもからお年寄りまでがいろいろな競技を楽しめ、アスレティックリハビリテーションまでできる施設があります。私はここをそういう総合スポーツクラブの一部のように、地域に根ざし、地域の人になくてはならない施設になるといいなと思っています」。

開業から約半年、そう語る仁賀先生には手応え十分な表情がうかがえた。今後大いに楽しみなクリニックである。

〔メモ〕
JIN 整形外科スポーツクリニック
院長：仁賀定雄（にが・さだお）
〒 338-0013 さいたま市中央区鈴谷 3-10-7
JR 埼京線「南与野」駅下車、徒歩 7 分
TEL:048-826-6815　FAX:048-826-6834
http://jinclinic.jp/

人工芝グランド。公式面積のフットサルコート。人工芝は十分なクッションがあり芝がまとわりつかないハイクオリティ。リハ室から扉一枚で出られ、キック、ステップ、ターン動作の確認などができる。高齢者のウォーキングも

にが・さだお院長

CT。16 列マルチスライス、3D-CT も撮れる。疲労骨折などの診断に欠かせない

透視 X 線装置

総合病院クラス、1.5 テスラの MRI 装置。正確な診断に欠かせない

3D-CT の画像例

リハビリテーション室。ドアを開けるとフットサルコートがある

リハ室の一画。運動療法中心でリハスタッフは常勤 4 名。ほかに放射線技師 1 名。非常勤スタッフを入れると計 20 数名

待合室と受付。待ち時間に勉強ができるスペースも用意